

# キヤノン株式会社

## 2024年第2四半期 決算説明会

2024年7月25日

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

---

■ 2024年2Q実績	P 2~5
■ 2024年年間見通し	P 6~10
■ 財務状況	P 11~13
■ まとめ	P 14
■ 参考資料	P 15~20

---

- 世界経済の成長鈍化により、当社関連市場でも一部地域において需要の弱含みが継続
- カメラやネットワークカメラ、レーザープリンターは在庫調整が予定通り終了し、売上回復
- 中長期的な市場拡大が見込まれる半導体露光装置や商業印刷機、メディカル事業は、着実に売上成長
- 前年から14%増収、第2四半期としては過去最高の売上を達成
- 営業利益は3割近く改善、営業利益率も10.1%まで上昇

2

世界経済は金利の高止まりによる欧州経済の低迷や不動産不況による中国経済の減速によって成長の鈍化がありましたが、米国を中心とした良好な雇用環境や実質所得の改善を背景に個人消費が堅調に推移し、総じて安定的に成長しました。当社関連市場においても欧州や中国において需要の弱含みが見えましたが、全体としては堅調でした。

そのような中、当社は、第1四半期まで続いていたカメラやネットワークカメラ、レーザープリンターの在庫調整が予定通り終了し、第2四半期に売上は大きく回復しました。また、中長期的な市場拡大が見込まれる半導体露光装置や商業印刷機、メディカル事業については、着実に売上を伸ばし成長を続けています。その結果、前年から14%の増収となり、第2四半期としては過去最高の売上を達成しました。

営業利益についても、売上の回復により前年から3割近い増益となり、売上高営業利益率は10.1%と第1四半期の8.1%から2ポイント上昇しました。

# 2024年2Q/上期 全社PL

Canon

(億円)	2Q			上期		
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 実績	2023年 実績	対前年
売上高	11,678	10,209	+14.4%	21,563	19,920	+8.2%
売上総利益 (売上総利益率)	5,516 47.2%	4,848 47.5%	+13.8%	10,300 47.8%	9,388 47.1%	+9.7%
経費 (経費率)	4,332 37.1%	3,925 38.5%		8,315 38.6%	7,621 38.2%	
営業利益 (営業利益率)	1,184 10.1%	923 9.0%	+28.3%	1,985 9.2%	1,767 8.9%	+12.3%
税引前利益	1,322	1,011	+30.8%	2,214	1,887	+17.4%
純利益 (純利益率)	899 7.7%	654 6.4%	+37.4%	1,498 6.9%	1,218 6.1%	+23.0%
USD	155.93	137.57		152.60	135.09	
EUR	167.98	149.62		164.97	145.88	

3

第2四半期の売上は、半導体露光装置やレーザープリンターおよびネットワークカメラや産業機器などの新規事業を中心に成長したことに加え、為替がドル、ユーロともに昨年より大きく円安方向に推移したことで、第2四半期の売上は14.4%増の1兆1,678億円となりました。

売上総利益については、売上増に加えて、コロナの収束に伴い物流費や逼迫していた部品価格が通常レベルに戻ったことでコストダウンが進み、人件費の上昇などによる経費の増加を吸収しました。

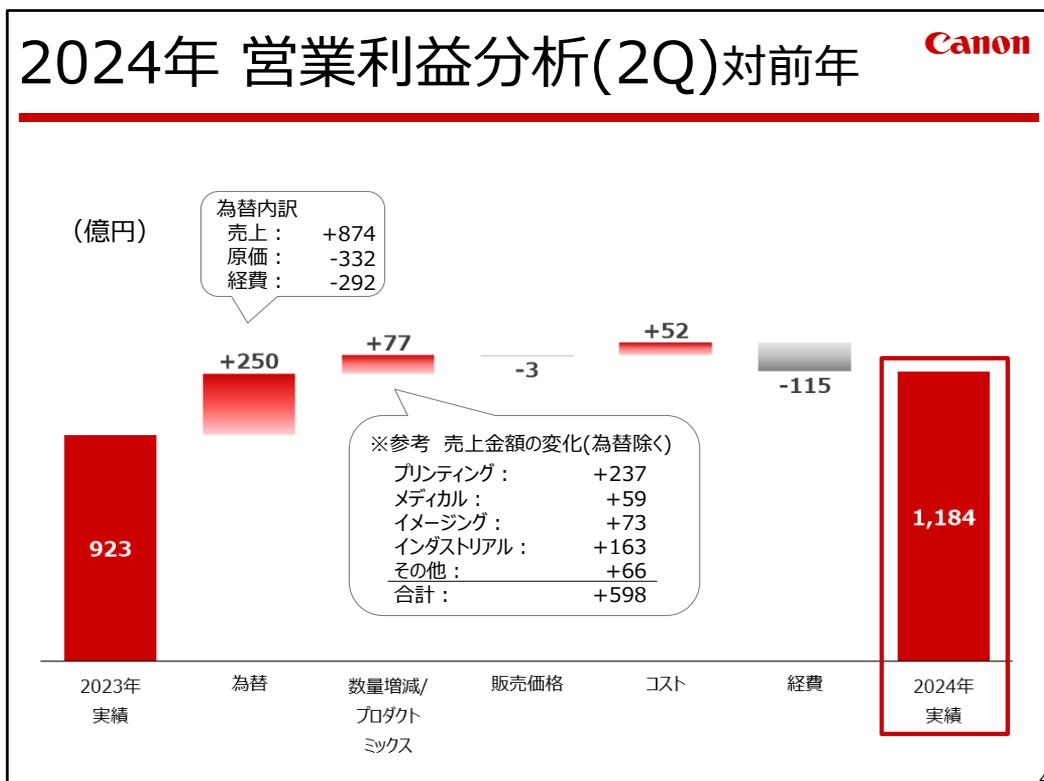
その結果、営業利益は対前年で28.3%増の1,184億円となりました。

税前利益は前年から30.8%増の1,322億円、純利益は37.4%増の899億円と全ての利益項目で、大幅な増益となりました。

上期累計では8.2%の増収となり、上期としては16年ぶりに2兆円の大台を超え、過去最高となる2007年に迫る水準となりました。

上期の営業利益は12.3%増の1,985億円、税前利益は17.4%増の2,214億円、純利益は23.0%増の1,498億円と第1四半期の遅れを挽回しました。

# 2024年 営業利益分析(2Q)対前年



円安の進行により為替で250億円のプラスとなったことに加えて、インダストリアルやプリンティングを中心とした販売増により数量増減/プロダクトミックスは77億円のプラスとなりました。

経費は人件費のベースアップや新製品の開発費を中心に115億円増加していますが、コストは物流費の低下に加えて工場経費の削減などにより52億円下がりました。

以上の結果、営業利益は対前年261億円増加し、1,184億円となりました。

# 2024年 ビジネスユニット別PL(2Q/上期)

(億円)		2Q			上期		
		2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 実績	2023年 実績	対前年
プリンティング	売上高	6,545	5,749	+13.8%	12,348	11,331	+9.0%
	営業利益 (%)	792 (12.1%)	593 (10.3%)	+33.6%	1,447 (11.7%)	1,099 (9.7%)	+31.7%
メディカル	売上高	1,410	1,261	+11.8%	2,752	2,572	+7.0%
	営業利益 (%)	55 (3.9%)	44 (3.5%)	+24.4%	111 (4.0%)	113 (4.4%)	-2.0%
イメージング	売上高	2,447	2,192	+11.6%	4,203	4,117	+2.1%
	営業利益 (%)	410 (16.8%)	345 (15.7%)	+19.0%	553 (13.2%)	717 (17.4%)	-22.9%
インダストリアル	売上高	945	749	+26.2%	1,629	1,369	+19.0%
	営業利益 (%)	179 (19.0%)	121 (16.1%)	+48.2%	300 (18.4%)	195 (14.2%)	+53.6%
その他及び全社	売上高	599	511	+17.2%	1,150	1,065	+8.0%
	営業利益	-248	-165	-	-436	-345	-
消去	売上高	-268	-253	-	-519	-534	-
	営業利益	-4	-15	-	10	-12	-
連結合計	売上高	11,678	10,209	+14.4%	21,563	19,920	+8.2%
	営業利益 (%)	1,184 (10.1%)	923 (9.0%)	+28.3%	1,985 (9.2%)	1,767 (8.9%)	+12.3%

※2024年より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、その他及び全社と消去の一部を組み替えており、2023年についても組み替えて表示しております。

5

プリンティングの商業印刷機は引き続きデジタルシフトによる市場拡大と競争力のある製品ラインアップにより成長を続けており、オフィス複合機も安定して成長しています。加えて、レーザープリンターは第1四半期までで出荷調整が終わり予定通り売上が回復し、インクジェットプリンターについても着実に売上が伸びています。以上の結果、ユニット全体で13.8%の増収となり、利益率は12.1%まで高まりました。

メディカルは、投資意欲が回復傾向にある米国においてCTなどの大型装置の販売が進み、国内においても昨年No.1シェアを獲得したMRIが引き続き好調で、11.8%の増収となりました。一方、海外での販売体制強化や成長にむけた開発投資などが先行していることから、利益率は3.9%と低水準にとどまりました。

イメージングについては、カメラ、ネットワークカメラともに、第1四半期の業績悪化の原因であった市中在庫の調整が終了し、第2四半期は売上が前年を上回るとともに、利益率も17%弱の水準に回復しました。

インダストリアルは、半導体露光装置が、パワー半導体向けや後工程向けを中心に販売台数を前年の42台から60台と大きく伸ばし、売上高は26.2%の増収、利益率も2.9ポイント高まり19%となりました。

この様に、成長投資がかさんでいるメディカルを除き、全てのビジネスユニットで、2桁の利益率を達成しました。

- 世界経済は先行き不透明の中で、前年並みの成長を予測
- BtoC製品（カメラ、インクジェットプリンター）  
新製品投入、マーケティング強化で需要喚起
- BtoB製品（露光装置、商業印刷機、メディカル）  
獲得した受注を確実に売上までつなげる
- 円安も追い風に過去最高となる売上高4兆6,000億円を目指す
- 通常のコストダウン活動に加え、事業構造見直しの取り組みを加速
- 4期連続の増収増益と2桁（10%）の営業利益率を目指す

世界経済は、地政学的な緊張や各国の金融政策など政治・経済両面で先行き不透明な状況が続いていますが、年間では前年並みの成長になると予測されています。

当社は、第2四半期の勢いを維持しながら、カメラやインクジェットプリンターなどのBtoC製品は新製品の投入やマーケティング強化によって需要を喚起し、露光装置や商業印刷機、メディカルなどのBtoB製品は獲得した受注を確実に年内に売上につなげ、下期の成長を加速させていきます。

また、これらに加え、下期の為替レートを前回見通しから円安方向に見直すことにより、年間では過去最高となる売上高4兆6,000億円を目指します。利益については、為替の追い風や売上荒利の改善の機をとらえて、事業構造改革を加速させますが、それを加味しても営業利益率10%以上の達成と、4期連続の増収増益を目指していきます。

# 事業構造の見直し

## タイムライン



## <販売会社>

- ・組織再編
  - ・DX推進
  - ・販売チャネル見直し
- 要員最適化、資産の効率化

**競争力を強化**

## <メディカル事業>

開発、生産、管理の最適配置



**リソースを全面投入できる体制に**

## 2024年実行計画の効果金額概算（億円）

	2024年	2025年
費用	300	
効果	70	210
<b>PL影響</b>	<b>▲230</b>	<b>210</b>

7

当社は現在事業構造の見直しを進めており、その一部はすでに実行フェーズに移っています。

販売会社においては、効率性を一層高めるための組織再編や、販売チャネルの見直し、業務プロセス改善に向けたDXの推進などによって、要員の最適化を進めるとともに、オフィスの統合などの資産の効率化を進め、プリンティング事業、カメラ事業における競争力をさらに高めていきます。

また、メディカル事業においては、キヤノンメディカルシステムズ社（CMSC）とキヤノン株式会社本体との一体化を進めるため、開発、生産、管理の最適配置を念頭に、組織の再編を進めます。キヤノンがもつリソースやノウハウを開発、調達、生産、物流、管理など全てのオペレーションで全面的に投入できる体制にすることで、重複する機能については集約化を図ります。

今回の最新見通しに構造改革に必要となる約300億円の費用を新たに計上しました。これにより2024年中に約70億円の利益改善、2025年には約210億円の利益改善を見込んでいます。

# 2024年 見通しのポイントと全社PL

(億円)	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
<b>売上高</b>	<b>46,000</b>	<b>41,810</b>	+10.0%	<b>43,500</b>	+2,500
<b>売上総利益</b> (売上総利益率)	<b>21,929</b> 47.7%	<b>19,689</b> 47.1%	+11.4%	<b>20,655</b> 47.5%	+1,274
<b>経費</b> (経費率)	<b>17,279</b> 37.6%	<b>15,935</b> 38.1%		<b>16,305</b> 37.5%	-974
<b>営業利益</b> (営業利益率)	<b>4,650</b> 10.1%	<b>3,754</b> 9.0%	+23.9%	<b>4,350</b> 10.0%	+300
<b>税引前利益</b>	<b>4,900</b>	<b>3,908</b>	+25.4%	<b>4,500</b>	+400
<b>純利益</b> (純利益率)	<b>3,350</b> 7.3%	<b>2,645</b> 6.3%	+26.6%	<b>3,050</b> 7.0%	+300
USD	153.87	140.85		141.87	
EUR	164.99	152.20		156.35	

2024年3Q-4Qの為替影響額  
(1円の変動による影響)

	売上	営業利益
USD	70億円	22億円
EUR	36億円	17億円

8

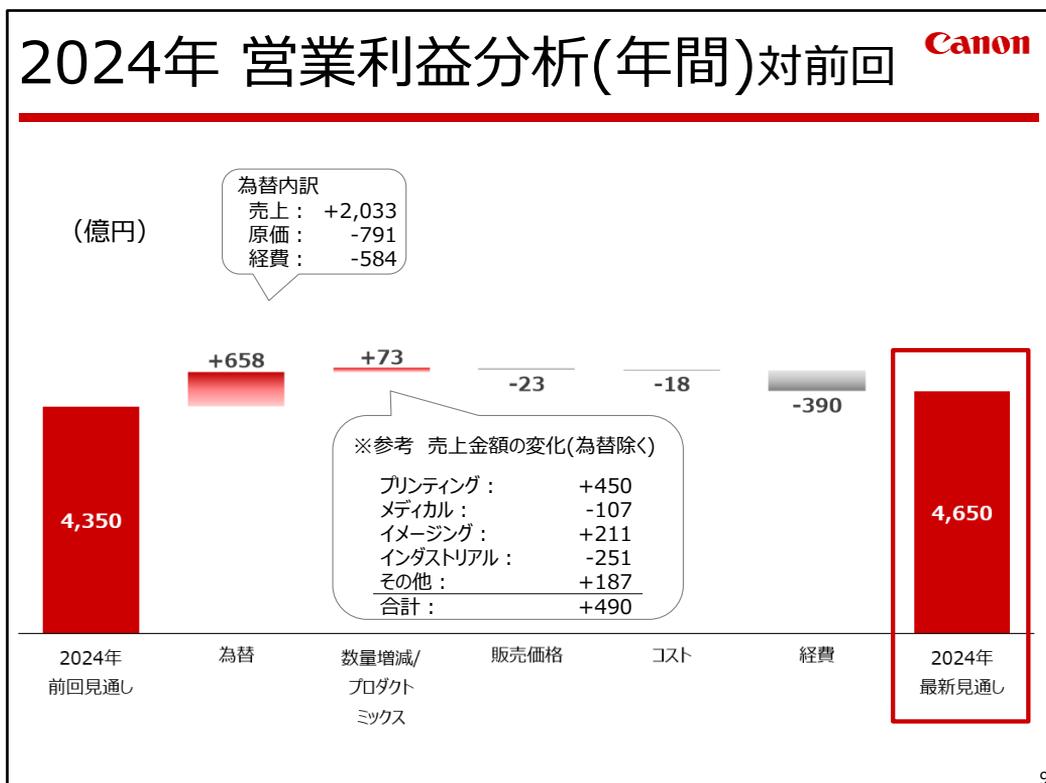
2024年の最新の見通しは、直近での為替を含む経営環境の変化や自社の販売状況ならびに構造改革の取り組みなどの要素を織り込み、前回から売上高を2,500億円、営業利益、純利益をそれぞれ300億円引き上げ、売上高は対前年10.0%増の4兆6,000億円、営業利益は23.9%増の4,650億円、純利益は26.6%増の3,350億円とします。

前提となる年間の為替レートは、足元の相場や金融政策の動向などを総合的に勘案し、1ドル 154円、1ユーロ 165円を想定しています。

足元では、為替が円高方向へ推移していますが、当面のドル円の変動については、先物予約でヘッジをしているため、損益への影響は限定的です。もし、それ以降も円高ドル安が続いたとしても、さらなるコストダウンや経費削減によって、為替の影響を極力吸収していきます。

# 2024年 営業利益分析(年間)対前回

Canon



為替については、前提となる為替レートを見直したことで、年間では658億円のプラス影響となります。

数量増減/プロダクトミックスはプリンティング、イメージングの売上増などにより、73億円のプラスとなる見通しです。

経費は、構造改革費用と利益改善効果のネットで230億円の増加、その他売上連動経費などの増加により、全体で390億円増加します。

以上の結果、営業利益は対前回で300億円増の4,650億円、営業利益率は10%超を目指します。

# 2024年 ビジネスユニット別PL(年間)

(億円)		2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	25,702	23,461	+9.6%	23,938	+1,764
	営業利益 (%)	2,998 (11.7%)	2,283 (9.7%)	+31.3%	2,606 (10.9%)	+392
メディカル	売上高	5,946	5,538	+7.4%	5,820	+126
	営業利益 (%)	460 (7.7%)	316 (5.7%)	+45.3%	460 (7.9%)	0
イメージング	売上高	9,739	8,616	+13.0%	9,000	+739
	営業利益 (%)	1,613 (16.6%)	1,456 (16.9%)	+10.8%	1,438 (16.0%)	+175
インダストリアル	売上高	3,556	3,147	+13.0%	3,790	-234
	営業利益 (%)	652 (18.3%)	586 (18.6%)	+11.3%	710 (18.7%)	-58
その他及び全社	売上高	2,034	2,088	-2.6%	1,960	+74
	営業利益	-1,084	-863	-	-864	-220
消去	売上高	-977	-1,040	-	-1,008	+31
	営業利益	11	-24	-	0	+11
連結合計	売上高	46,000	41,810	+10.0%	43,500	+2,500
	営業利益 (%)	4,650 (10.1%)	3,754 (9.0%)	+23.9%	4,350 (10.0%)	+300

※2024年より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、その他及び全社と消去の一部を組み替えており、2023年についても組み替えて表示しております。

10

プリンティングでは、商業印刷が5月の国際的な印刷機材展示会（drupa）で目標以上の受注を獲得しており、オフィス複合機も、欧州で獲得した大口商談の設置・販売が行われることから、下期も上期と同程度の成長を計画しています。プリンターについても、レーザーは出荷調整が終わり、インクジェットは拡充した大容量モデルの拡販を進めることで、下期は増収となる見込みです。利益率は、売上成長とコストダウンの進展に円安が加わり11.7%まで高める計画であり、高収益ビジネスへの転換が着実に進んでいます。

メディカルは、グローバル展開を開始したCTやMRIなど大型装置の新製品売上が下期から本格化することに加え、特に販売体制を強化している米国でのビジネスが回復していることから、年間で7.4%の売上成長を計画しています。商戦期である第4四半期を含む下期は、売上を上期から400億円以上伸ばし、販売体制強化などの経費増を吸収できる水準にまで引き上げるとともに、メディカル事業革新委員会の活動成果を一部今年中に出すことで、年間の利益率を7.7%まで高めます。

# 2024年 ビジネスユニット別PL(年間)

Canon

(億円)		2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プリンティング	売上高	25,702	23,461	+9.6%	23,938	+1,764
	営業利益 (%)	2,998 (11.7%)	2,283 (9.7%)	+31.3%	2,606 (10.9%)	+392
メディカル	売上高	5,946	5,538	+7.4%	5,820	+126
	営業利益 (%)	460 (7.7%)	316 (5.7%)	+45.3%	460 (7.9%)	0
イメージング	売上高	9,739	8,616	+13.0%	9,000	+739
	営業利益 (%)	1,613 (16.6%)	1,456 (16.9%)	+10.8%	1,438 (16.0%)	+175
インダストリアル	売上高	3,556	3,147	+13.0%	3,790	-234
	営業利益 (%)	652 (18.3%)	586 (18.6%)	+11.3%	710 (18.7%)	-58
その他及び全社	売上高	2,034	2,088	-2.6%	1,960	+74
	営業利益	-1,084	-863	-	-864	-220
消去	売上高	-977	-1,040	-	-1,008	+31
	営業利益	11	-24	-	0	+11
連結合計	売上高	46,000	41,810	+10.0%	43,500	+2,500
	営業利益 (%)	4,650 (10.1%)	3,754 (9.0%)	+23.9%	4,350 (10.0%)	+300

※2024年より、報告セグメントごとの業績をより適切に管理するため、その他及び全社と消去の一部を組み替えており、2023年についても組み替えて表示しております。

10

イメージングのカメラについては、下期に、フラッグシップモデル「EOS R1」と、プロ・ハイアマチュア向けの主力モデル「EOS R5 Mark II」のミラーレス新製品2機種を発売し、圧倒的なシェアNo.1を目指します。在庫調整の終了したネットワークカメラも2桁成長を継続する見通しであり、イメージンググループ全体で13%の増収を計画しています。

インダストリアルについては、半導体露光装置は前年から30%増となる244台を販売し、FPD露光装置についても下期から受注済みの売上を伸ばしていく計画です。有機EL蒸着装置もITパネル向け大型装置の売上計上が進み、全体で高利益率を保ちながら13%の増収を目指していきます。

# 在庫の状況

- 6月末は在庫調整が終了したカメラを中心に円安影響を除くと減少
- 2024年末は適正在庫である60日以下の水準を目指す

(金額：億円)	2023年				2024年		
	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	
プリンティング	金額	3,725	3,875	3,776	3,126	3,476	3,615
	日数	57	62	60	47	52	53
メディカル	金額	1,363	1,431	1,509	1,259	1,411	1,460
	日数	88	102	107	77	86	97
イメージング	金額	1,636	1,733	1,846	1,684	1,914	1,824
	日数	69	77	77	68	86	79
インダストリアル	金額	1,330	1,400	1,428	1,329	1,464	1,502
	日数	154	187	170	136	160	168
その他及び全社	金額	534	542	580	571	683	724
	日数	74	82	82	66	76	77

11

6月末の棚卸在庫は、3月末に比べ176億円増加していますが、円安による評価替えの影響を除くと、約160億円減少しています。

商戦期を含む下期は各ビジネスユニットで上期を上回る売上を計画しており、準備しているミラーレスカメラの新製品や受注済みの半導体露光装置、商業印刷機、メディカル装置の在庫を販売につなげていきます。部品、原材料についても今年3月に発足させたPSI適正化プロジェクトの下で、逼迫時に早期確保していた在庫の削減を進め、全社合計の在庫回転日数を6月末の77日から、年末は60日以下まで引き下げていきます。

# キャッシュフロー(年間)

- 年間利益見通しの増加により、営業CF は5,900億円へ上昇
- 1,000億円の自社株買いは完了、配当は1株あたり150円

(億円)	2024年 最新見通し	2024年 前回見通し	2023年 実績	2022年 実績
純利益	3,350	3,050	2,645	2,440
償却費	2,400	2,400	2,387	2,265
その他	150	250	-520	-2,079
営業活動によるキャッシュフロー	5,900	5,700	4,512	2,626
設備投資	-2,400	-2,400	-2,317	-1,885
その他	-550	-550	-437	77
投資活動によるキャッシュフロー	-2,950	-2,950	-2,754	-1,808
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>2,950</b>	<b>2,750</b>	<b>1,758</b>	<b>818</b>
財務活動によるキャッシュフロー	-2,995	-2,995	-1,567	-1,468
為替変動影響	82	-18	201	257
<b>現預金の純増減額</b>	<b>37</b>	<b>-263</b>	<b>392</b>	<b>-393</b>
<b>現預金の期末残高</b>	<b>4,050</b>	<b>3,750</b>	<b>4,013</b>	<b>3,621</b>
<b>手元回転月数</b>	<b>1.0</b>	<b>1.0</b>	<b>1.1</b>	<b>1.0</b>

12

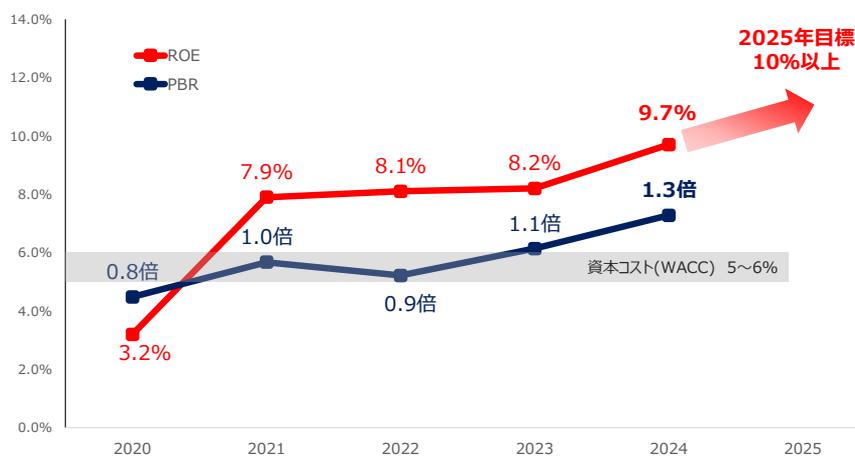
純利益が前回計画から300億円増えたことで、営業キャッシュフローは5,900億円となる見通しです。

投資活動については、今年も積極的に成長投資を行う計画であり、第1四半期にはキヤノンマーケティングジャパン社が370億円を投じITソリューションビジネス分野でのM&Aを実施したほか、半導体露光装置の旺盛な需要に応えるための新工場の建設も進めています。

年間で得られる2,950億円のフリーキャッシュフローから、約1,400億円を1株あたり150円の配当に、1,000億円を自社株買いにあて、トータルで2,400億円を株主還元として支出します。残りの約600億円は借入金の返済に回すことによって、年末の現預金は昨年と同水準の4,050億円となる計画です。

現預金残高については、今後も売上高の約1カ月分を確保することを方針とし、それを上回るキャッシュが生まれる場合は、成長投資、株主還元、借入金返済の順で資金の用途を計画していきます。

- ROE 2024年9.7%と、昨年から1.5ptの大幅な上昇
- 2025年目標10%以上の達成、さらなる向上に取り組む

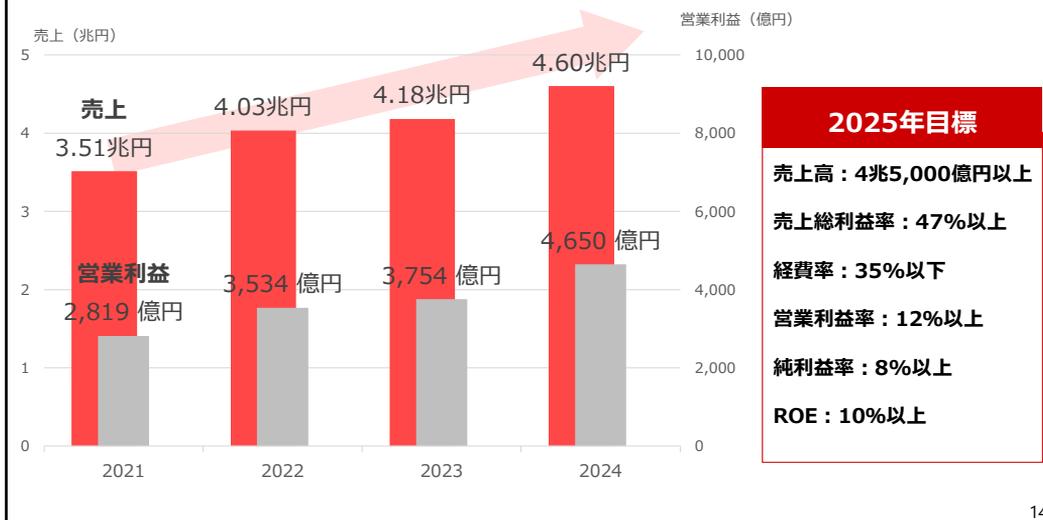


13

ROEについては、純利益の増加や資本回転率の上昇により昨年から1.5ポイントアップの9.7%まで高まる見通しであり、2008年以降で最も高い水準を見込んでいます。

2025年には目標の10%以上の達成を確実なものとし、さらにその先も高めていけるよう、構造改革を押し進め、中期的な観点より収益性の改善、資産効率の改善に取り組んでいきます。

- 過去最高の売上高と4期連続の増収増益を目指す
- 2025年売上目標を1年前倒しで達成し、利益率も達成に向け邁進



下期は、過去最高の売上高となった第2四半期の勢いを継続するとともに、半導体露光装置、メディカル、商業印刷機など成長市場における事業成長を加速させ、カメラやインクジェットプリンターも新製品投入により商戦期の販売を最大化することで、年間でも過去最高の売上高ならびに4期連続の増収増益を目指していきます。

売上については、2025年の目標である4兆5,000億円を1年前倒しで達成する見通しであり、利益率についても、販売やメディカルなど事業構造改革を進めることで、5カ年計画「グローバル優良企業グループ構想Phase VI」で掲げた2025年業績目標の達成に向け邁進していきます。

## 參考資料

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	2Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プロダクション	1,112	968	+14.9%	4,432	4,016	+10.4%	4,138	+294
オフィス	1,702	1,565	+8.8%	6,654	6,222	+6.9%	6,275	+379
	1,038	887	+17.0%	4,109	3,641	+12.9%	3,693	+416
	2,740	2,452	+11.8%	10,763	9,863	+9.1%	9,968	+795
プロシューマー	1,799	1,497	+20.2%	6,797	6,089	+11.6%	6,317	+480
	894	832	+7.5%	3,710	3,493	+6.2%	3,515	+195
	2,693	2,329	+15.6%	10,507	9,582	+9.7%	9,832	+675
売上高計	6,545	5,749	+13.8%	25,702	23,461	+9.6%	23,938	+1,764
営業利益	792	593	+33.6%	2,998	2,283	+31.3%	2,606	+392
%	12.1%	10.3%		11.7%	9.7%		10.9%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
プロダクション	+2.7%	+2.0%
オフィス	+3.7%	+3.8%
プロシューマー	+6.5%	+3.8%
合計	+4.7%	+3.5%

## ■対前年台数伸び率

	2024年	
	2Q	年間見通し
オフィス複合機	-1%	0%
LP	+8%	+18%
インクジェット	-4%	0%

15

## <プロダクション>

デジタル商業印刷機の市場は、アナログからのシフトが着実に進んでおり、年率5%程度の成長が続く見通しです。

第2四半期は、引き続き連帳機「Color Stream」や大判印刷機「Colorado M」が売上を伸ばし、またカットシートの「imagePRESS Vシリーズ」の3機種も好調を維持しています。

5月末からドイツで開催された4年に一度の国際的な印刷機材展示会（drupa）では、競争力のある豊富なラインアップが評価され、目標を上回る注文を獲得できました。下期からこれらが売上につながる見込みであり、今後も安定的な成長を継続していきます。

また、drupaに先駆けてオフセット印刷機のリーディングカンパニーである「Heidelberg」社とのグローバル業務提携を発表しました。この提携により、併せて発表した当社初のデジタルB2プリンター「varioPRESS iV7」をはじめ、需要拡大が見込まれるカットシートインクジェットプリンターの新規顧客開拓が可能となります。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

		2Q			年間				
		2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,112	968	+14.9%	4,432	4,016	+10.4%	4,138	+294
オフィス	オフィス複合機	1,702	1,565	+8.8%	6,654	6,222	+6.9%	6,275	+379
	オフィスその他	1,038	887	+17.0%	4,109	3,641	+12.9%	3,693	+416
		2,740	2,452	+11.8%	10,763	9,863	+9.1%	9,968	+795
プロシューマー	LP	1,799	1,497	+20.2%	6,797	6,089	+11.6%	6,317	+480
	インクジェット	894	832	+7.5%	3,710	3,493	+6.2%	3,515	+195
		2,693	2,329	+15.6%	10,507	9,582	+9.7%	9,832	+675
売上高計		6,545	5,749	+13.8%	25,702	23,461	+9.6%	23,938	+1,764
営業利益		792	593	+33.6%	2,998	2,283	+31.3%	2,606	+392
%		12.1%	10.3%		11.7%	9.7%		10.9%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
プロダクション	+2.7%	+2.1%
オフィス	+3.7%	+3.8%
プロシューマー	+6.5%	+3.8%
合計	+4.7%	+3.5%

## ■対前年台数伸び率

	2024年	
	2Q	年間見通し
オフィス複合機	-1%	0%
LP	+8%	+18%
インクジェット	-4%	0%

15

### <オフィス複合機>

ビジネスの現場における生産性の高いプリンティング機器として底堅い需要に変わりはないものの、中国や欧州における景気減速の影響により、今年の市場は前年からわずかに縮小する見込みです。

当社の第2四半期は、欧州の獲得済み商談の設置が着実に進み、本体販売台数は前年並となりました。サービスについては、1台当たりのプリントボリュームは緩やかに減少していく長期的なトレンドの中でも、戦略的に進めているカラー機の稼働台数の増加によりカバーし、収入は安定しています。

年間計画の達成に向け、メンテナンス性や省エネ性能の点が評価され大口商談も獲得できており、下期もマーケットシェアを上昇させながら、売上は安定的に推移する見通しです。

### <オフィスその他>

ITソリューションビジネスは好調であり、昨年10月と今年3月にキヤノンマーケティングジャパングループに加わった2社の売上も上乘せされ、第2四半期の売上は前年を大きく上回りました。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

		2Q			年間				
		2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
プロダクション		1,112	968	+14.9%	4,432	4,016	+10.4%	4,138	+294
オフィス	オフィス複合機	1,702	1,565	+8.8%	6,654	6,222	+6.9%	6,275	+379
	オフィスその他	1,038	887	+17.0%	4,109	3,641	+12.9%	3,693	+416
		2,740	2,452	+11.8%	10,763	9,863	+9.1%	9,968	+795
プロシューマー	LP	1,799	1,497	+20.2%	6,797	6,089	+11.6%	6,317	+480
	インクジェット	894	832	+7.5%	3,710	3,493	+6.2%	3,515	+195
		2,693	2,329	+15.6%	10,507	9,582	+9.7%	9,832	+675
売上高計		6,545	5,749	+13.8%	25,702	23,461	+9.6%	23,938	+1,764
営業利益		792	593	+33.6%	2,998	2,283	+31.3%	2,606	+392
%		12.1%	10.3%		11.7%	9.7%		10.9%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
プロダクション	+2.7%	+2.0%
オフィス	+3.7%	+3.8%
プロシューマー	+6.5%	+3.8%
合計	+4.7%	+3.5%

## ■対前年台数伸び率

	2024年	
	2Q	年間見通し
オフィス複合機	-1%	0%
LP	+8%	+18%
インクジェット	-4%	0%

15

## <プロシューマー>

今年のプリンター市場は、中国・欧州でのさらなる市況の悪化により、前年から3～5パーセント程度の縮小を予想しています。

レーザープリンターは出荷調整がようやく終了し、第2四半期の売上は計画通り前年を大きく上回りました。

調整が終わり、売上が実需の水準まで回復することに加え、競合に対抗して顧客ニーズにマッチしたモデルを投入しマーケットシェアを向上させることで、今年の売上を引き上げていきます。

インクジェットプリンターは、中国を中心とした市況の弱さにより、第2四半期の売上は引き続き前年をやや下回っていますが、第1四半期と比べると着実に伸びてきており、大容量インクモデルについては前年から16%販売台数を伸ばしました。下期は大容量インクモデルのさらなるラインアップの拡充により主戦場である新興国を中心に拡販を加速し、全体でも前年を上回る売上を目指していきます。

# プリンティング ハード/ノンハード売上

## ■プリンティング ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

			2024年		2023年	
			2Q 実績	年間 見通し	2Q 実績	年間 実績
プロダクション	円貨	ハード	+19%	+12%	+9%	+11%
		ノンハード	+13%	+9%	+11%	+11%
	LC	ハード	+6%	+3%	+3%	+3%
		ノンハード	+1%	+2%	+4%	+3%
オフィス複合機	円貨	ハード	+7%	+6%	+21%	+12%
		ノンハード	+11%	+8%	+8%	+7%
	LC	ハード	-4%	0%	+15%	+5%
		ノンハード	+2%	+2%	+3%	+2%
LP	円貨	ハード	+17%	+21%	-6%	-10%
		ノンハード	+22%	+6%	-20%	-4%
	LC	ハード	+7%	+14%	-10%	-15%
		ノンハード	+14%	+2%	-20%	-6%
インクジェット	円貨	ハード	+7%	+7%	-19%	-14%
		ノンハード	+8%	+6%	0%	+2%
	LC	ハード	-3%	0%	-23%	-18%
		ノンハード	-2%	-1%	-5%	-4%

## ■ 売上/対前年伸び率

(億円)

	2Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
売上高計	1,410	1,261	+11.8%	5,946	5,538	+7.4%	5,820	+126
営業利益 %	55 3.9%	44 3.5%	+24.4%	460 7.7%	316 5.7%	+45.3%	460 7.9%	0

## ■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
合計	+4.6%	+2.9%

17

キヤノンのメディカル事業の売上の中で7割以上を占める画像診断装置の市況は、反腐敗運動が継続する中国を始め新興国は弱く、一方で金利引き下げが予測されている米国では回復傾向にあり、地域による強弱はあるものの、全体では今年も2%程度の市場成長を見込んでいます。

第2四半期は、投資意欲の回復が見られる米国において商談や設置が先送りされていたCTやVL（循環器X線診断システム）などの大型装置の販売が進み、国内においては昨年シェアNo.1を獲得したMRIが引き続き好調で、全世界合計で11.8%の増収となりました。

下期からは、80列検出器を搭載するボリュームゾーンのCT新製品「Aquilion Serve SP」と、日本でシェアNo.1獲得に貢献した1.5テスラ「Vantage Fortian」の海外での売上が本格化することに加え、3テスラのMRI「Vantage Galan」の新製品や米国で好調なVLの拡販を計画しており、大型装置の売上増加を見込んでいます。

販売数量増以外にも、新製品比率の増加や原価低減施策を織り込んだ製品の展開、昨年第4四半期に販売した大型装置のサービス収入開始により売上総利益率が上期から改善し、人件費の増加や新製品開発、販売体制強化のための成長投資の増加を吸収することで、年間の営業利益率を7.7%まで高めていきます。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	2Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
カメラ	1,551	1,419	+9.3%	6,061	5,446	+11.3%	5,642	+419
ネットワークカメラ他	896	773	+15.9%	3,678	3,170	+16.0%	3,358	+320
売上高計	2,447	2,192	+11.6%	9,739	8,616	+13.0%	9,000	+739
営業利益	410	345	+19.0%	1,613	1,456	+10.8%	1,438	+175
%	16.8%	15.7%		16.6%	16.9%		16.0%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
カメラ	-1.5%	+3.7%
ネットワークカメラ他	+5.4%	+7.7%
合計	+0.9%	+5.1%

## ■カメラ台数/対前年伸び率

	2024年	
	2Q	年間見通し
台数(万台)	76	290
伸び率	-3%	+1%

18

## <カメラ>

今年の市場規模について、当初は昨年から4%減の575万台を想定していましたが、各社が積極的な販促投資を行って需要を喚起しており、昨年並みの595万台に見直しました。

第2四半期は、市中在庫の調整が終了し、販売台数が実需に見合う水準にまで回復したため、第1四半期に比べると50%以上売上が増え、前年からは9%の増収となりました。

下期には売上成長に向けフルサイズモデルの拡販を図るため、新製品2機種を投入します。

8月に発売するプロ・ハイアマチュア向けの主力モデル「EOS R5 Mark II」は、新たに開発した映像エンジンシステムとディープリーニング技術の活用によって、静止画・動画ともに性能が大幅に進化しており、今月17日の発表直後から大きな反響を呼んでいます。さらに11月にはミラーレスとしては初となるフラッグシップモデル「EOS R1」を発売し、ミラーレスカメラにおいても業界をリードする当社のポジションを確固たるものにしていきます。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	2Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
カメラ	1,551	1,419	+9.3%	6,061	5,446	+11.3%	5,642	+419
ネットワークカメラ他	896	773	+15.9%	3,678	3,170	+16.0%	3,358	+320
売上高計	2,447	2,192	+11.6%	9,739	8,616	+13.0%	9,000	+739
営業利益	410	345	+19.0%	1,613	1,456	+10.8%	1,438	+175
%	16.8%	15.7%		16.6%	16.9%		16.0%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
カメラ	-1.5%	+3.7%
ネットワークカメラ他	+5.4%	+7.7%
合計	+0.9%	+5.1%

## ■カメラ台数/対前年伸び率

	2024年	
	2Q	年間見通し
台数(万台)	76	290
伸び率	-3%	+1%

18

## <ネットワークカメラ>

市場は、安心安全を求める人々の根源的なニーズを背景に成長を続けており、世界経済減速の影響も限定的です。

昨年の第4四半期に始まった販売パートナーの在庫調整は、欧州、アジアだけでなく米州においても終了し、当社の第2四半期の売上はプラス成長に戻り、下期は2桁成長に回帰する見込みです。

セキュリティ目的を中心としながらマーケティングや医療・介護などへも用途を広げており、長期的視点にたってソフトウェア開発や販売力強化などの成長投資を行っていきます。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	2Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
光学機器	613	506	+21.0%	2,508	2,126	+18.0%	2,488	+20
産業機器	332	243	+36.6%	1,048	1,021	+2.6%	1,302	-254
売上高計	945	749	+26.2%	3,556	3,147	+13.0%	3,790	-234
営業利益 %	179 19.0%	121 16.1%	+48.2%	652 18.3%	586 18.6%	+11.3%	710 18.7%	-58

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
光学機器	+18.4%	+16.8%
産業機器	+36.6%	+1.6%
合計	+24.3%	+11.9%

## ■露光装置台数

		2024年	
		2Q	年間見通し
半導体	KrF	10	54
	i線	50	190
		60	244
FPD		7	26

19

## <光学機器>半導体製造装置

半導体デバイス市場は、生成AIやデータセンター向けにメモリやロジックが大きく伸び、個人消費の低迷で縮小した昨年から再び増加に転じ、過去最大の規模となる見通しです。

半導体露光装置の市場は、半導体デバイスの中長期的な成長見通しと各国で自国生産を進める動きにより拡大基調にあり、今年は大きく成長した前年と同水準になると見込んでいます。

当社は第2四半期に、パワー半導体向けや後工程向けを中心に前年を18台上回る60台を販売しました。上期の109台に対し、下期は135台の販売を計画しており、設置を平準化しながら着実に進め、年間で前年を大きく上回る244台を目指します。

次世代の半導体製造装置であるナノインプリントについては、メモリ、ロジックなど、多様なデバイスでの実用化を目指し、半導体メーカーの仕様に基づき、様々なパターンニングを試しながら、共同で評価・検証を進めています。

## ■売上/対前年伸び率

(億円)

	2Q			年間				
	2024年 実績	2023年 実績	対前年	2024年 最新見通し	2023年 実績	対前年	2024年 前回見通し	対前回
光学機器	613	506	+21.0%	2,508	2,126	+18.0%	2,488	+20
産業機器	332	243	+36.6%	1,048	1,021	+2.6%	1,302	-254
売上高計	945	749	+26.2%	3,556	3,147	+13.0%	3,790	-234
営業利益	179	121	+48.2%	652	586	+11.3%	710	-58
%	19.0%	16.1%		18.3%	18.6%		18.7%	

## ■対前年売上伸び率(現地通貨)

	2024年	
	2Q	年間見通し
光学機器	+18.4%	+16.8%
産業機器	+36.6%	+1.6%
合計	+24.3%	+11.9%

## ■露光装置台数

		2024年	
		2Q	年間見通し
半導体	KrF	10	54
	i線	50	190
		60	244
FPD		7	26

19

## <光学機器> FPD（フラットパネル ディスプレイ）露光装置

パネル需給バランスの改善が進み、パネルメーカーの収益改善が見込まれるため、ディスプレイ製造装置への投資も来年に向け徐々に回復してくる見通しです。

当社のFPD露光装置の販売台数は、第1四半期の1台から第2四半期は7台にまで増え、下期に計画している18台についてもすべて受注は完了しています。

6月には車載用のピラー-toピラー大型ディスプレイ（※）を主なターゲットとした新製品『MPAsp-E1003H』を発売しました。顧客ニーズに合わせて、高い生産性や重ね合わせ精度を備えた装置を提供することで、新規の受注獲得を目指していきます。

（※）車の運転席から助手席にまで渡る大型のディスプレイ

## <産業機器>

有機EL蒸着装置において、スマートフォン向けの中小型装置同様、業界標準としての確立を目指す「ITパネル向け大型装置」の初号機の生産を進め、進捗に合わせて売上を計上したことで、第2四半期の産業機器は37%の増収になりました。

# 2024年 営業利益分析(年間)対前年

